

### \* さわら と ひのき の見分け方

2011 年 6 月 1 日夕方、いつものように除湿機の水の始末に天文機器資料館に向かっていると道路脇に入り込み、サワラの木の枝をむしっているおじさんがいる。不審な輩と近づいてみると光赤外の水本教授だ。「不審なおじさん、何をしていますのですか？」と尋ねると、この木はなんですか？と聞くから、サワラです。と答えると、その木から東に 5m ほどの同じような木は何ですかという、やはりサワラでしょう!という、その葉っぱをむしって、先の葉っぱとその葉っぱの裏を並べて見せ、ほら白い模様が違うでしょう！（写真 1）



写真 1 左がサワラ、右がヒノキ

写真 1 の左がサワラで葉っぱの裏の白い文様が「H」に見える、右の葉っぱの裏の白い文様は「Y」に見える。サワラの方は、「あら、エッチ！サワラないで！」、右のヒノキは、「あら、卑猥（ヒワイナ）なこと言わないで！」と覚えるのだそうだ。筆者は天文台官舎に 20 年住んでいた。天文台には 43 棟の官舎があったが、その官舎の生け垣はすべてサワラだと教えられていた。ドーム近くの、あるいは天文台の道路際に同じような木々もすべてサワラだと思い込んでいたのである。

写真1の葉っぱの裏を拡大して見よう。写真2がサワラの葉っぱの裏、写真3がヒノキの葉っぱの裏である。



写真3 サワラの葉っぱの裏



写真4 ヒノキの葉っぱの裏

似たような木に「アスナロ」という木がある。これは次のような葉っぱをしているとある(写真5)。天文台の植生に興味を持った人が多くいることは知っていたが、水本教授がその一人だったようだ。

国立天文台の森にはたくさんのお木があるし、草花も豊富に残っている。アーカイブ室新聞の附録に天文台の中で咲いている美しい、あるいは可憐な花の写真を載せようとした際、盗掘に会うからやめるようにとの示唆を受けたことがある。しかし、天文台の中の珍

しい木々、美しい草花などは紹介したと思うのである。



写真5 アスナロの木と葉っぱ（ヒノキに似た仲間から引用）

これらアーカイブ室新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、[arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp](mailto:arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp)